

女性アルコール依存症患者の発症と回復に関わる背景要因を探る

－当事者と家族の体験記を対象にした計量テキスト分析－

○五百竹 亮丞¹・井川 純一²

(¹ 広島文化学園大学人間健康学部・² 東北学院大学人間科学部)

問題と目的

女性アルコール依存症患者の主観的体験に着目した研究によると、DV 被害による PTSD や摂食障害、うつ病との併発が特徴的な発症要因であり、自助グループとの出会いが回復要因と報告されている(Yamashita & Yoshioka, 2022)。他方、女性患者の発症と回復を身近で見てきた家族の視点を取り入れた研究はみられない。本研究では女性患者の発症と回復に関わる要因を探るため、患者とその家族の体験手記を対象にした計量テキスト分析を行った。

方法

資料 全日本断酒連盟が発行している女性酒害者とその家族の体験手記を収録した夜明けまでの長い旅Ⅲ (2011)・Ⅳ (2016) から抽出した 63 件の記事 (当事者 31 件、家族 32 件) を分析対象にした。

分析ソフト 分析には KH Corder (樋口, 2014) を使用した。

分析手順 分析用のデータセット及びプロジェクトは当事者が記した記事と家族が記した記事を分けて作成した。次にそれぞれのデータセットから検出された複合語候補を参考に強制抽出する語句を設定した。そして分析単位の設定を段落に固定し、共起ネットワーク分析を行った。なお共起ネットワーク分析は、都度 KWIC コンコーダンスを参照し、語の共起関係が意味的に解釈可能となるよう語の最小出現数と表示する共起関係の範囲を繰り返し調整した。

結果

テキストの単純集計 当事者が記した 31 件の記事は、合計 379 段落、1,320 文で構成され、総抽

出語数は 33,365 であった。家族が記した 32 件の記事は、323 段落、1,220 文で構成され、総抽出語数は 32,645 だった。

共起ネットワーク分析 当事者と家族のどちらも語の最小出現数を 10、上位 60 の共起関係を描写する設定を採用した。その結果、当事者の体験手記からは義理家族との関係、母親としての責任など 14 個のクラスターが抽出された。家族の体験からは、家庭内不和や夜間の飲酒に関するエピソードなど 11 個のクラスターが抽出された (Table 1)。

考察

家族関係の両価性 当事者と家族の体験手記を分析したところ、家庭内の葛藤は病的飲酒と関連することが伺えた。特に義理両親との関係や母親の育児責任を示すクラスターは女性特有の発症要因と考えられる。いっぽう KWIC コンコーダンスを確認すると、家族は当事者とともに障害を受容し、サポーターとして機能していることも示唆された。入院治療と断酒会との出会いが家族システムを再編成させるきっかけとなり回復を促していると推察される。

本研究の課題 断酒会会員の体験手記であり、断酒会に関するエピソードが抽出されることは必然的な結果である。そのため女性患者全体へ一般化することには慎重さが求められる。

引用文献

Yamashita, A., & Yoshioka, S. I. (2022). Subjective recovery accounts of Japanese female patients suffering from alcohol use disorder. A phenomenological study. *Perspectives in psychiatric care*, 58(4), 2820–2827.

Table 1 当事者と家族の体験手記から抽出された共起クラスター

当事者		家族	
1 断酒会での体験	8 連続飲酒の体験	1 断酒会での関係	8 子ども視点の疾患エピソード
2 病的飲酒の原因	9 障害受容の体験	2 配偶者視点の治療体験	9 家族が見た光景
3 入院治療中の体験	10 母親としての責任	3 家族の障害受容	10 回復後の幸福感
4 義理両親との関係	11 症状の比喻	4 当事者に求める母親像	11 当事者の疾患を知る体験
5 渴望に関する体験	12 育児関係	5 家庭内不和のエピソード	—
6 治療に関する体験	13 原家族の巻き込み	6 夜間の飲酒エピソード	—
7 診断を受けた体験	14 薬物療法の体験	7 健常者との比較	—